

- 思考を記録する「京大式カード」
  - 一案件一葉の原則を守る
    - 一つのカードに一つの内容を書く
    - 他のトピックと混同させない
  - 
    思考の部品を蓄積する
    - あとで自由に並べ替え可能にする
    - 情報同士が化学反応が起こる
    - 脳の延長としてカードを活用する
- 整理ではなく「配列」が命
  - 
    分類という罠から抜け出す
    - 固定的なカテゴリ分けを避ける
    - 目的ごとに組合せを柔軟に変える
    - あくまで新しい価値を生むため
  - 物理的に情報を動かす
    - カードを広げて関係性を探る
    - 「忘却の技術」で頭を整理する
- 書くことで考える「発見の手帳」
  - 事実ではなく発見を記す
    - 日々の気づきや仮説を言葉にする
    - 自分だけの独自の視点を育てる
  - 
    書く行為で思考を具体化
    - 頭の外に出して客観的に眺める
    - 継続的な記録で知の地図を描く
    - 自分だけの知の蓄積を積み上げ